

津ライスニュース 平成29年産第2報

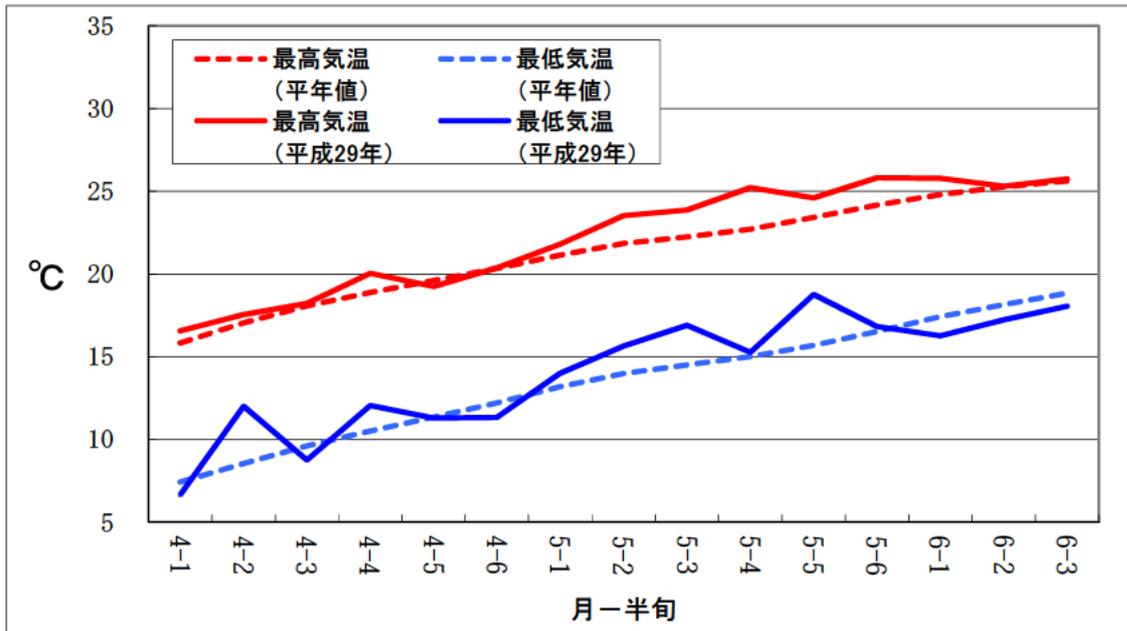
平成29年6月19日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

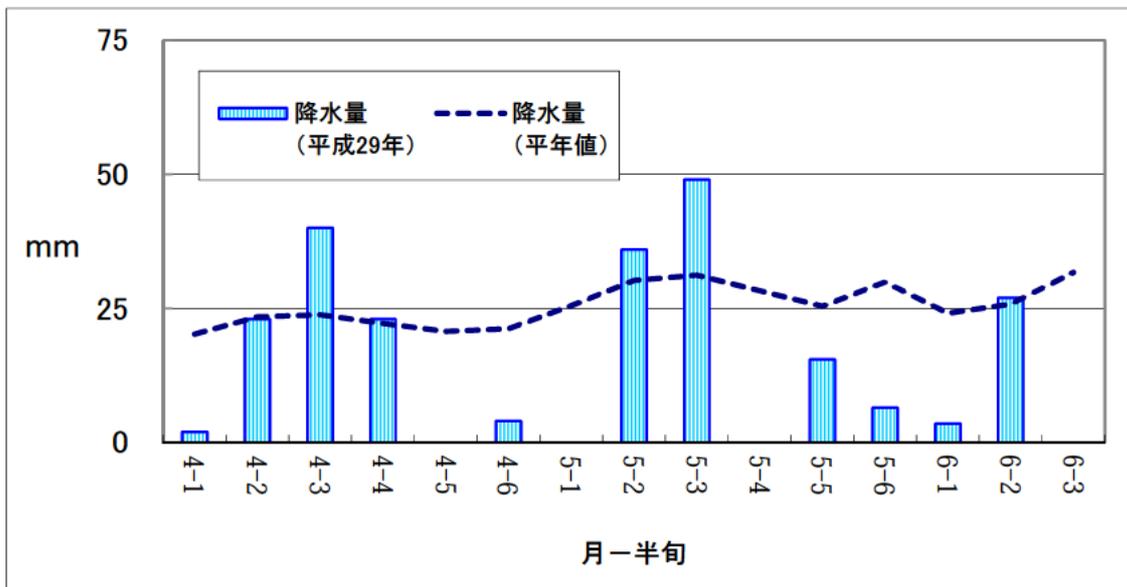
<気温>

5月の気温は平年に比べやや高く、6月以降は平年並みに経過しました。



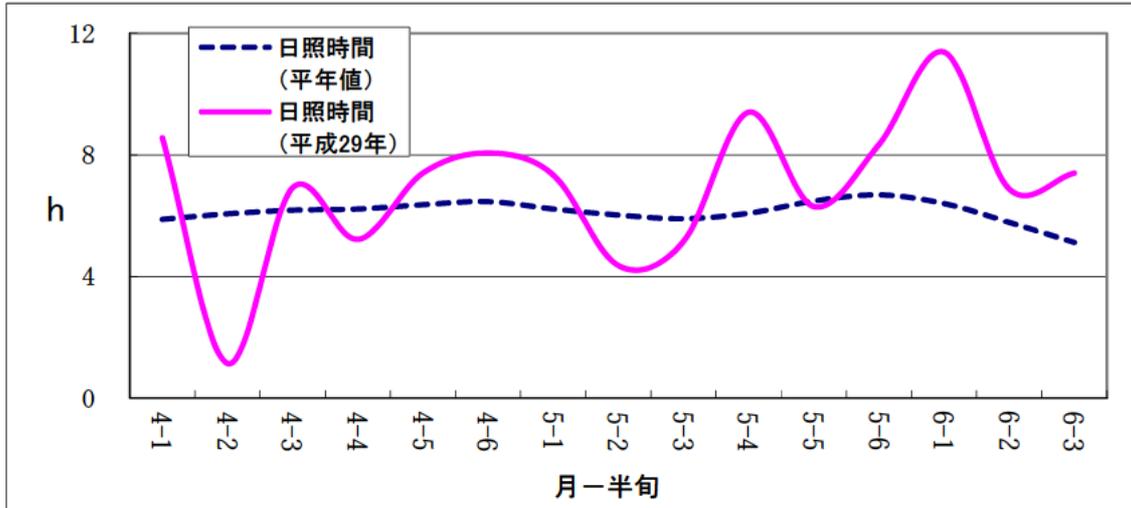
<降水量>

5月中旬は曇天日が続いたものの、その後、5月下旬～6月上旬にかけては、降水量はかなり少なく経過しました。梅雨入りは、6月7日と平年に比べ1日早くなりました。



<日照時間>

5月下旬以降、平年に比べかなり多照に経過しました。



生育の概況

5月下旬以降、殆ど降雨日がなく多照に経過し、草丈はやや短くなり、茎数はかなり多く、葉色もややうすくなっています。しかし、用水が不足しているほ場では、茎数は少なく、雑草が多発しているところが見受けられます。病虫害の多発生は、現在のところありません。

水稲生育基準田調査結果

H29.6.15

場所	移植月日	草丈 cm	茎数 本/m ²	茎数 本/株	葉令 L	葉色 spad
殿村	4月20日	52.5	473	39.3	7.8	36.2
安濃	4月23日	42.2	331	20.7	7.6	34.2
井生	4月29日	44	611	31.7	7	31.1

(参考)前年同時期の調査結果

H28.6.14

場所	移植月日	草丈 cm	茎数 本/m ²	茎数 本/株	葉令 L	葉色 spad
殿村	4月21日	55.6	428	33.5	7.6	40.4
安濃	4月25日	43.4	312	21.3	7.6	36.3
井生	4月29日	47.2	414	21.1	8.2	38

○水稲生育予測

【平成29年6月14日現在】

品種	移植期	幼穂形成期の予測日	出穂期の予測日	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	6月28日	7月19日	(0.2日早い)
	5月15日	7月8日	7月30日	(0.2日早い)
	6月10日	7月27日	8月19日	(0.1日遅い)
みえのゆめ	4月25日	7月5日	7月29日	(1.3日早い)
	5月30日	7月18日	8月19日	(1.0日遅い)
三重23号	4月25日	6月22日	7月14日	(0.5日早い)
	5月10日	7月1日	7月23日	(0.4日早い)

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による生育予測です。

気象庁アメダス津観測地点データ(直近10ヵ年の平均気温)を使用しています。

害虫の発生状況と対策

<いもち病>

いもち病発生に適温(25~28℃)となる時期を迎えます。6月中旬以降、雨の日が続く、高温多湿で感染に好適な条件が揃う日が現れると、本田でのいもち病発生が心配されます。ほ場を見回り、いもち病の初発の早期発見と適期防除に努めましょう。

出穂期に台風が通過した場合は、その直後にいもち病防除を行いましょう。

<斑点米カメムシ類等>

今後、畦畔等ほ場周辺での発生増加に注意しましょう。

- ・カメムシ類の増殖場所となるような畦畔雑草を早めに除去しましょう。
- ・草刈りは出穂10日前までに行いましょう(出穂直前や出穂後の草刈りは、水田への害虫侵入を助長します)。

今後の栽培管理

<穂肥>

穂肥の適期に適量を施用しましょう。

全量基肥肥料(一発基肥)施用田は原則穂肥を施用しない。

ただし、生育前半が高温で推移し肥効切れが心配される場合は二回目の穂肥時期に窒素成分で1kg/10a程度の追肥を行います(白未熟対策にもなります)。

施肥過多は食味低下の要因になるとともに、倒伏・穂いもちの発生を助長します。

穂肥の施用効果が期待できる稲の姿とは

- ・葉色が薄くて(葉色4.5以下)、葉が直立している(株元スッキリ)
- ・地際の節が短く(第4節間が3cm程度)、茎が太い
- ・過剰な分けつが少なく、草丈が70cmを超えないこと
- ・病害(特にいもち病、紋枯病)の発生が少ないこと

施用量の判断

- * 分けつが多く生育が過剰な稲 時期を遅らせる。量を減らす。やらない。
- * 分けつが少なく小出来な稲 時期を早める。

穂肥の施用時期

一回目の穂肥は**初回の退化防止、初穀を大きくする効果が期待できます。**

- ・コシヒカリ 出穂18~15日前(幼穂長1.0~1.5cm)
- ・その他品種 出穂22~20日前(幼穂長0.5cm)

穂肥用緩効性肥料を使用する場合は時期を2~3日早め、1回のみでの施用とする。

二回目の穂肥は**玄米を大きくする、いわゆる「実肥」的な効果が期待できます。**

- ・一回目の穂肥施用7~10日後

コシヒカリの穂肥施用の目安 (資材は例)

	葉色	3.5 ~ 4.0	4.0 ~ 4.5	4.5 以上
	草丈	65 cm	70 cm	75 cm以上
NK 化成4号 (14-0-14)	一回目	20	15	やらない
	二回目	10	10	10
IB045 (20-4-5)	一回目	20	10	やらない

< 水管理(中干し以降) >

- ・中干しは幼穂形成が始まる時期までには終了し、直後は走り水とし、その後は間断灌水とします。間断灌水ができない水田は足跡に水が残る程度の水管理とします。
- ・出穂期も深水は避け、出穂後から収穫7日前までの期間は間断灌水を続けます。水をかける場合はなるべく夕方にしましょう。水の溜めすぎは根の老化や根腐れの原因となります (**根数は出穂前20日頃に最大となり、出穂期には新根がほとんど出なくなります**)。
- ・早期落水は未熟粒や胴割粒等が多発し玄米の品質が低下するので、落水は収穫前7日以降としましょう (**玄米の大きさは開花後25日頃に決まります**)。

(参考)

穂の発達過程と日数および外部形態との関係(星川)

発達の過程	出穂前日数	幼穂の長さ	外形
穂首の分化	30日	0.2mm	止葉より下から3枚目の葉が出始める
1次枝梗分化	28日	0.4mm	
2次枝梗分化	26日	1mm	
えい花分化	24日	1.5mm	止葉より下から2枚目の葉が出始める
雄しべ・雌しべ分化	20日	2mm	
花粉母細胞分化	18日	8 ~ 15mm	止葉が出始める
減数分裂期	12日	8cm	
花粉内容充実	6日	19.5cm	穂ばらみ始め
花器内部の完成	2 ~ 1日	22cm	
開花	0日	22cm	出穂

葉耳間長(止葉の抽出程度)と出穂前日数の関係

出穂前 18日 - 15cm

出穂前 15日 - 10cm

出穂前 10日 ± 0cm

(**二回目の穂肥の適期**)

出穂前 5日 + 10cm

